



浜松方式による産学官連携モデルの構築と実践に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2021-04-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 天野, 優子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003839

論文審査の結果の要旨

申請者は、浜松地域における産学官連携モデル、すなわち「浜松方式」による医療機器および介護福祉器具の研究開発から事業化に至るまでを調査、分析した。研究方法として、文献等による事前調査（量的研究）、Steps for Coding And Theorization による分析法を活用した事例収集（質的研究）を選択し、浜松地域における事例、および比較として他地域における事例を取り上げ、これら複数の方法により、産学官連携モデルを解析した。

その結果、浜松地域の医療機器・介護福祉器具産業クラスターでは、異業種からの参入や他の光産業クラスターとの統合により、ライフサイクルの「成長」、「持続」や「再生」がみられた。また、「自治体ドリブン・クラスター」ではなく独自の「大学・病院ドリブン・クラスター」を形成していることが明らかとなった。クラスターにおけるアカデミアの役割として、医療ニーズや技術シーズを提供し、産業界と連携して研究開発費を獲得していること、成果を積極的に発表することでマーケティング活動につながることを示唆された。文献調査、アンケート調査、インタビュー調査を行ったところ、知的財産マネジメントではいわゆる特許出願以外にも、コストのかからないノウハウを選択し、大手企業に対してはノウハウの実施許諾契約を締結していた。紳士協定で何ら契約なしで共同研究を実施している事例もみられた。比較対象となる他地域では、産業界もアカデミアも産学連携を希望しているが、地域のニーズを満たす方向には向かっていないことが示された。研究、調査の解析結果からは、産学連携コーディネーターや類似職によるマネジメントが鍵を握っていることが示され、中小ものづくり企業や大学に対して研究、開発の方向性を明らかにした。

当該研究においては、浜松地域の医療機器および介護福祉器具の研究から事業化までの事例について、調査・分析を行い、産学連携コーディネーターや類似職によるプロジェクトマネジメントの重要性を示した。

以上により、本論文は博士（光医工学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者	主査	三宅 秀明	副査	青木 徹
	副査	椎谷 紀彦	副査	中村 和正